

大谷大學
圖書館藏
西藏大藏經甘殊爾勘同目錄

石濱純太郎

大正の初頭丙午出版社から佛教講義録が出版された時、渡邊海旭師は「歐米の佛教」の題下に歐米の佛教研究を紹介解題されたが、特に一章を割いて西藏佛教の研究を頗る詳細に講述し、「我國にも西藏研究は切實に要求される、徒らに西人の研究を臚列して他家の財寶を數へる愚を學ぶのでない、我國からも西藏學者が雲興潮湧世界の舞臺に活躍して欲しい、嗚呼能海寬君は既に此目的の爲めに往いて歸らぬ西藏學の犠牲となつた、纔に寺本の河口の諸師で吾國の斯學を代表する現状では何ごも淋しいではないか」云、慷慨一番されたものであつた。爾來歲月流れて茲に二十年、終に寺本櫻部師弟兩先生が今や世に貽るこの甘殊爾勘同目錄の賜物には全世界の學界は當に深甚なる感謝の意を表せねばならない時代となつた。

甘殊爾の目錄はチョーマ・フェエア・シュミット・ベツ

「西藏大藏經甘殊爾勘同目錄」の發刊

クの種類なる解題目錄があつて皆それぞれ學界の讚譽を博した名著であるが、今の目錄は從來未出の北京紅字印本で P. Cordier が未成の遺業を完結せしめたものである上に、梵漢兩本との勘同目錄たる點に於て歐米印度の學者には容易に期待し難きものを達成してゐるので、斷然壓倒的に永く世界の權威を維持するであらう。

思へば此の目錄編纂にも長い努力が拂はれてゐるのだ。佛教史學の第三編に現はれた寺本師の叙論から、佛教研究の第七卷に初めて出かけた櫻部師の初稿を経て、今や單行の具本に世の光を見せしむるに至つた長い養育、正に二十年以上の勞作だ。その間既出の論撰は始終余の研究の指針ともなり參考書ともなつてゐるが、今又將來も然るを思へば、余も亦一種の感慨を深くするを禁じ得ないんだ。

本目錄の特色は凡例に懇實に示す如く、一に通番號を

附して經題を出して漢名目錄(余は同様の丹殊爾目錄を一閱せるが、目錄は藏蒙滿漢の四體を具備してゐるが、蒙名目錄は藏録を直譯して然も同じく首尾相聯接したる書流しの體裁のもの、漢録は藏録を譯出して目錄風に排比したるもの、滿録は漢録を直譯した同體裁のものになつてゐる。甘殊爾の方も同じ様では無からうか。)を參照し、二に奥書を譯出摘記して之無きものも親切に注し、三に梵本漢譯の對同を博く掲げ、四に梵漢本ミの内容對照表を密に示し、五にデリゲ版ナルタン版の所在を記入し、六に校勘を脚注して研究文籍の指示に及べるの六善を擧ぐべく、この六善を串穿するに實事求是の一線を以てしてゐるのは喜ばしい。

尙ほ六善に添ふるに三美を以てする。一に紙面の寬濶にして眼に快よく、二に活字組入れの明晰にして讀むに便なる、三に活字の繁雜なるに誤植の極めて少き(例へば二二頁 No. 76 中の Rtog po 等の如き誤はあるには有るが)是れである。

この六善三美が有るから一辭の贅すべき無い様だが、

隨を得て蜀を望むは人情なれば敢て余の期望を附記したい。近來單行に雜誌に西藏佛典の本文並びに譯文の出づるもの益々多くなる様だから、少くも西藏々經より派出校訂せられたるもの、所在を詳に注しておいて貰ひたい。出來得べくは西藏支那の各種の異種板本迄分明なるものは著録に及ばれたい。本目錄の編者既に幾分その試みを脚注に示されたのであるから(例へば四三頁 No. 121, 一一一頁 No. 329, 一一九頁 No. 361, の如く)、西藏文主者である本目錄は藏本の別行支流を詳記すべきであらう。例へば五七頁 No. 160 には尙ほ寺本師文法本、上海功德林の覆能海師本(これは五體文心經と題してゐるが藏文ロオマ字譯を一體に數へてゐるんだ)あり一一九頁 No. 361, に對しては Konow 本 Walliser 本があり、一七五頁 No. 174, には泉芳璟師本(古い無盡燈に出てゐて、たしか未完だつた様に記憶す)あるの如きである。又勿論藏文よりせる翻譯本も有れば皆書いておいて貰へば此上ない。かく異本譯本の注記を備へるに目錄ミ名付けても實は一部の藝文志ミなる。目錄學上の一

偉觀なるだらう。

又余自身に關する事で恐縮ではあるが、余ミネフスキの認定せる西藏文よりの西夏譯本の名を脚注せられたるは余等の報告が種々の事情の爲めに出版遅延してゐる際、誠にその盛意を謝する次第である。此等の認定に當つて常に櫻部師の助力の多大なりしを記して御禮を述べる。たゞ一ヶ所八七頁 *ノ. 307* の脚注に此經の西藏譯よりの西夏譯ありとあるは全然誤謬にして、恐らく余の櫻部師に語れる言葉の不足せるに歸因する思違ひであらう。これは西域考古圖譜下卷西域語文書(22)の(3)(4)の斷片の事を云ふので、それが于闐語智炬陀羅尼の斷片に(一) Dr. Leumann が (*Buddhistische Literatur. Nordisch und Deutsch. I. Teil.*) 認定せる部分中にも含まるゝものなので別に藏夏兩文に關係あるものでないのだ。岡書院近刊の靜安學社通報第二冊にその小報が出る筈だが未だに出刊に至らない。

一體佛教學研究に於て本地は印度だから梵語或は巴利語が原典として尊ばれるのには異存がない。たゞ原典

〔西藏大藏經甘殊爾勘同目錄〕の發刊

寫本が後代のものが多いから、例へ譯本でも古い支那譯が却つて代理をする事になる。然るに漢文は簡單すぎて晦澁の點を生ずるから、西藏の直譯式の方が却つて原意を探り易い。所が西藏々經にも數板あり、古寫本がある。そこで板本の學・校勘の學・目錄の學に進まねばならなくなる。この點に於ては今や本目錄は所謂尖端に立つつたミ云つてもいい。昔は南條目錄出で、學界の轉機を作つたミ云はれたが、今又谷大目錄現はれて學界に轉機を與へやうしてゐる。東本願寺の佛教學に對する奇なる緣である。

我國は今や西藏々經を異種數本を將來し、各地の公私大學に安置せられ、學者も亦皆大約之を檢するの知識を備へ、その研究は動もすれば先進の歐米を駕して之に上らんとしてゐる。梵藏漢の對校には昭和法寶勘同目錄及び南條目錄補正索引の漢本よりし、本目錄の藏本よりするの二種の指導書も我國で出來た。當に來るべき佛教學の時代は斷然我國學界が中心となるべきを豫想せしむる。海旭師が感慨せしより二十年、二十年の長い歲月を

倦まざりし斯道諸學者の精進に、及び特に本目錄第一冊出版の此際に於て婉雅師ミその出藍の弟子文鏡師の努

力に謹んで敬意を表する。而して本目錄の出版が魔事なく速に完結せん事を祝する。

大谷大學圖書館藏

「西藏大藏經甘殊爾勸同目錄」の出版を記念して

山口 益

西藏藏經甘殊爾の目錄ミしては櫻部文鏡氏が宗教研究第七卷一號に上げらるゝ如く、主なるものミして(1)既に約百年前、即ち一八三六年カルカッタに於て Asiatic researches 中ニ Csoma de Kőrös ニテ(2) Analyse du cher pinyin, du phal chen, du Dkon tsegs, du Do-de, du Nyang das et du Gyut. ヲ(3)ものせられ、後その分類目錄は Léon Feer が佛譯増補して一八八一年 Annales du Musée Guimet の第二卷中に出版せられ、(4)一八四五年に Saint-pétersbourg の西藏語蒙古語學者 I. J. Schmidt の著 Der Index des Kanjur があり、(5) Verzeichniss des Tibetischen Handschriften 及 Handschriften-

verzeichnisse der Königlichen Bibliothek の第二十四卷ミして Meghaduta 及び Udānavarga 西藏譯の出版者ミしても知らるゝ Hermann Beckh の著であり、(4)我國に於ては河口慧海氏譯ナルタン版西藏大藏經甘殊爾目錄、昭和三年刊を有する。

cher pinyin, du phal chen, du Dkon tsegs, du Do-de, du Nyang das et du Gyut. ヲ(3)ものせられ、後その分類目錄は Léon Feer が佛譯増補して一八八一年 Annales du Musée Guimet の第二卷中に出版せられ、(4)一八四五年に Saint-pétersbourg の西藏語蒙古語學者 I. J. Schmidt の著 Der Index des Kanjur があり、(5) Verzeichniss des Tibetischen Handschriften 及 Handschriften-

佛佛京巴里國立圖書館寫本室所藏北京版丹殊爾目錄出版者 Palmyr Cordier は E. Blochet の記する處によれば Catalogue du fonds tibétain の第一卷たるべき甘殊爾目錄の出版を後期の爲に残しつゝ、一九一四年九月五日歐洲大戰の犠牲者ミなつて居る。故に六年間近く Palmyr Cordier が植民地派遣の一軍醫ミしてその本務